平成27年度　発達障害に関する教員の専門性向上事業

海田町立海田南小学校の取組

研究テーマ

主体的に学ぼうとする児童の育成をめざして

～国語科における説明的な文章の授業づくりを通して～

４月からの取組

「ユニバーサルデザイン」の
授業づくり・学級づくり

① 教室環境・学習環境の整備

② 一人一人のニーズに応じた
特別な教育支援

③ 認め合い,支え合う学級づくり
（安心して学校生活を送るために）

④ 授業づくりの工夫

【前面すっきり】

【棚にはカーテン】

【場所・置く順番を固定】

【本時のながれ】

【Ａ児】→音読が苦手（例：きょ・う・は・は・れ・です）

Ⅰ　アセスメント

・「読み」だけでなく,聴く・話す力の実態把握　→比較的できる

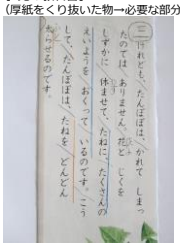
Ⅱ　つまずきの要因を推測

・形を正確に捉えることが難しい
・文字から音への変換が難しい
・一度に多くのことを処理できない

Ⅲ　指導

・分かち書きにする
・漢字に振り仮名を付ける
・不必要な情報を遮断する
・指でなぞりながら読む
・文章に関係のある絵・写真を用意する
・語句の意味を確認・体験させる

【A児の教科書】
（厚紙をくり抜いた物→必要な部分だけ見せる）



【Ｂ児】→読解が苦手
（例：音読はできるが,内容について問われると的外れな回答）

Ⅰ　アセスメント

・誤答パターンを分析　→主題が何かを見つけることができにくい

Ⅱ　つまずきの要因を推測

・ことばの意味の理解が難しい
・部分と部分（又は全体）との関係が理解できない
・推測することが難しい
・今まで読んできた内容を頭の中にストックして,読み進めることが難しい

Ⅲ　指導

・文章に関係のある絵・写真を用意
・キーワードを丸で囲む
・説明文は,１枚ものに（全体を捉えやすくする）
・段落の関係を図で示す

授業実践①　（プラン）

◆第２学年　国語科　単元名　分かりやすくせつめいしよう「おもちゃの作り方」

◆本時の目標

○　【せつ明のこつ】を使いながらまとまりや順序に気を付けて
「バッチンガエル」の作り方②③を書くことができる。

◆児童の状況と,それをふまえた指導・支援のポイント

学級全体の状況

「物事の出来事の順序に沿って,文を並びかえる事ができる」かどうかの調査問題の誤答分析の結果

↓

「何について書いてあるのかを捉える力」
「出来事の順番に文をつなげて,つながりのある文を組み立てる力」が十分でない。

特別な支援が必要な児童の状況

【Ａ・Ｂ児】共通点
●正しい書き順で,字形を整えて文字を書く事ができない。
●簡単な文章を,適切に並び替えて表現する事が難しい。
●今までの内容をストックして読み進めることが苦手。
●主述の整った文章が書けない。
●音読・読解が苦手。
●問われている事に対して,見当違いの回答。
●集中が続かず,作業に時間がかかる。
○視覚的支援が有効（絵・写真・キーワードに印）
○説明文は1枚ものにすると,全体が捉えやすい。
○発表したい意欲は強い。

↓

指導・支援のポイント

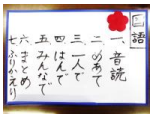
視覚化・焦点化（シンプルに）・共有化→「わかった！」「できた！」を実感

授業実践②　実践の具体

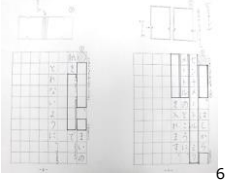
▶ 本時で行った主な支援

① 机上の整理
② 授業のパターン化
③ 導入でタブレット使用
④ 「書く」時間の確保
⑤ マス目のある学習シート
⑥ ヒントカード
⑦ 全員が意見を言う場面の設定
⑧ わざと未完成文を提示

【本時の流れ】
（マグネットを移動）



【学習シート】
（ヒントカード）



授業実践②　実践の具体

学習シートの記述　（②→全員記述　③→３２人中９人記述途中）

【Ａ児】ヒントカード使用

②「（**つぎに**）,はしから（**二**）センチメートル（**五**）ミリメートルのところに,（**切りこみ**）を入れます。」
③「（**それから**）,（**二**）まいの紙を（**セロテープ**）で（**はります**）。」「とれないように,（**ぐるっとまきましょう。**）」

班学習→「Ａ君の文が良いです。」「気を付ける事が書けています。」　**自信に！**

《その後の学習》

「おもちゃフェスティバル」グループのリーダーに！→一人で説明書を作成,
振り返り作文◎

【Ｂ児】ヒントカード使用

②「（**つぎに**）,はしから（**二**）センチメートル（**五**）ミリメートルのところに,（**小さい三かく**）を入れます。」
③「（**それから**）,（**二**）まいの紙を（**セロテープ**）で（**くっつけます**）。」
「とれないように,（＿＿＿＿＿＿）」

班学習→「友達の意見を聞いたら分かった。」　**書ける！**

《その後の学習》

自分の手作りおもちゃの説明文○→「おもちゃフェスティバル」Ａ君のグループに入って協力
振り返り作文◎

授業実践③

▶ ○成果　●課題

○授業のパターン化
○活用できるノート
○視覚支援
（掲示物,タブレット,実物,未完成文,マス目,ヒントカード）
○「まとまりごとに必要な内容や順序を考えて書いている。」
・本時の達成率　→約７１％
・二次６時の達成率→約９６％

●時間配分
●ヒントカードの提示の仕方
●班学習の持ち方

授業実践④

▶ 今後の改善点

☆導入・教師の話は短く
☆どの子にヒントカードが必要かの見極め
☆聴くだけでは　すまない工夫
・必ず全員が意見を言う場面の設置
・ペアトーク→確認し合う
・班学習の進め方
☆「目ざす児童像」を明確に
→ゴールの具体化
☆本時だけで終わらない
→生活に生きる学びに

普及・啓発　　拠点教諭の取組

【校外での主な取組】

1　各研究会・特別支援部会への参加・意見交流
2　研究授業事前の授業者との検討会
3　平成27年度第3回授業力向上研修
「発達障害のある児童生徒の授業づくり」での実践発表

～平成27年度発達障害に関する教員の専門性向上事業を踏まえた校内での取組について～

普及・啓発　　拠点校の取組

【校内での主な取組】

1　学級開きにあたって　～特別支援教育の視点から～
①支える校内体制（特別支援教育「校内委員会」の設置）
②発達障害・支援アプローチについて
③「ユニバーサルデザイン」の授業づくり・学級づくり
④教室環境チェック　（チェック表作成）→
2　学級ソーシャルスキルトレーニング紹介（例「後出しジャンケン」）
3　発達障害のある児童への理解と支援（行事前等）
4　校内全体研修（国語科　分かりやすくせつめいしよう「おもちゃの作り方」）

今年度の成果・課題

	成　果	課　題
授業実践	○教室環境･学習環境の整備 →集中しやすくなった ○授業のパターン化 →見通しをもって活動 ○活用できるノート →既習学習を想起,理解を深める ○視覚支援（学習シート,タブレットの活用）	●個別の支援方法 →「つけたい力」に対する具体的な手立てか ●時間配分 →振り返りまで ●聴くだけでは　すまない工夫 →全員が発表（活躍）できているか
普及・啓発	○　海田町授業力向上研修・特別支援教育研修会で次の内容ついて実践報告・提案 ・ユニバーサルデザインの授業づくり・学級づくりを取り入れ,指導の視点を一貫 →教室環境・学習環境など,指導の違いをなくすことができた ・発達障害・支援アプローチについて知る →障害の特性・接し方等　共通理解 ・配慮が必要な児童に行った支援 →他の児童にとっても便利で有効な支援に	●「教師が困る点」に目が行きがち →「児童本人が困っている点」は？ ●分かりやすさにつながる授業づくりの具体的な工夫の開拓 →発問・板書・教材教具は有効か ●保護者への理解・連携 →共通認識できているか

次年度への展望

	取　組　の　重　点
授業実践	①　ぶれない指導 ②　正しいこと・できる方法に気付かせる ③　認め合い,支え合う学級作り ④　個に応じた具体的な支援 ・「つけたい力」に対する有効な手立ての検討 ・時間配分（考える・書く時間の確保） ・全員が活躍できる場の確保
普及・啓発	①　特別な教育的支援が必要な児童の実態把握と共通理解 ・児童本人が困っている点 ・分かりやすさにつながる授業作り ②　特別支援教育推進委員会の在り方の研修 ・児童・職員の支援体制づくり ③　研修会の充実 ・具体的な支援方法 ④　保護者との連携の在り方の研修 ・相談窓口に